

土砂災害ハザードマップとは

土砂災害ハザードマップは、土砂災害防止法に基づき、東京都が指定した、がけや地滑り、土石流といった土砂災害の危険性がある区域を示しています。近隣の危険区域を確認していただき、万が一の災害に備えてください。

土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発令されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長の避難勧告や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表をしています。

土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、特に早めの避難が重要です。土砂災害警戒情報が発表されたときは、村内で土砂災害発生の危険度が高まっているため、周囲の状況や雨の降り方にも注意し、危険を感じたら躊躇することなく、自主避難をお願いします。

土砂災害から身を守る

1. 自宅や周辺に危険がないか確認する

日頃から身近にある危険な個所を把握・点検しましょう。またがけがなく水害に遭いにくい場所や家の2階に避難するなど、いざというときの避難方法についても考えておきましょう。

2. 雨が降り出したら、注意報・警報や土砂災害警戒情報に注意する

雨が降りだしたら行政やメディアの発信する情報を確認しましょう

3. 早めに避難する

近年、大雨で想定していなかった土砂災害が発生する場合があります。気象情報に注意し少しでも危険と判断したら早めに自主避難しましょう。お年寄りや障害のある人、お子さんがいる世帯など、避難に時間がかかることを考えて、早めに行動することが大切です。

土砂災害の前兆現象に注意

土砂災害が発生するときは、なんらかの前兆現象が現れる場合があります。

- ・がけにひび割れができる
- ・小石がぱらぱらと落ちてくる
- ・がけから水がわき出ている
- ・地鳴り、山鳴りがする
- ・流れている水が濁っている

前兆現象はあくまで参考です。前兆現象がない場合もあります。危険を感じたら速やかに避難しましょう。

土砂災害における避難行動の考え方

時間的余裕がある場合は、あらかじめ定めた避難場所に速やかに避難することが重要です。しかし、時間的に余裕のない場合には、土石流が流れてくると予想される区域や危険な急傾斜地から離れる方向に速やかに避難することが重要となります。

避難勧告等の対象とする避難行動については、これまで避難所と呼称されてきた場所に移動することのみではなく、次の全ての行動が避難行動です。そのうち、立ち退き避難とは危険な場所から安全な場所へ移動することであり、基本的には①、②、③が立ち退き避難に該当します。

①避難場所への移動

②(自宅等から移動しての)安全な場所への移動(公共施設、 親戚や友人の家等)

③近隣の堅牢で高い建物等への移動

④建物内の少しでも安全な場所での待避

避難勧告等の種類と行動

気象状況によって避難勧告等が発令されます。しかし、必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じたら避難を開始してください。

情報の種類	住民に求める行動
避難準備・ 高齢者等避難開始	・避難に時間を要する人(ご高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう ・その他の方は、避難の準備を整えましょう
避難勧告	・速やかに避難場所へ避難しましょう ・外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所へ避難しましょう
避難指示(緊急)	・まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難しましょう ・外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所へ避難しましょう

気象警報・注意報とは

警報や注意報は、気象要素（雨量、風速、波の高さなど）が基準に達すると予想した区域に対して気象庁が発表します。

- 警報** 重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報です。
- 注意報** 災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。

気象警報・注意報の発令基準

発表基準は、災害発生に密接に結び付いた指標を用いて設定されています。警報・注意報の基準は、市町村ごとに過去の災害を網羅的に調査した上で、「重大な災害の発生するおそれがある」という値を設定されています。

雨量と人が受けるイメージ

1時間雨量	予報用語	人が受けるイメージ	災害発生状況
10～20ミリ	やや強い雨	ザーザー降る	長く続くときは注意が必要
20～30ミリ	強い雨	どしゃ降り	側溝や下水があふれ、小規模のがけ崩れがはじまる
30～50ミリ	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	がけ崩れがおきやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
50～80ミリ	非常に激しい雨	滝のように降る	土石流が起こりやすい多くの災害が発生する
80ミリ以上	猛烈な雨	息苦しくなるよう圧迫感がある。恐怖を感じる	大規模な災害の発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要

＜出典＞気象庁ホームページ 抜粋
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/knownow/yougo_hp/amehyo.html

気象警報・注意報および警報級の可能性の発表

警報は、重大な災害が発生するような警報級の現象がおおむね3～6時間先に予想されるときに発表することとされています。しかしこうした猶予時間（リードタイム）は、気象警報・注意報が防災関係機関や住民に伝わり安全確保行動がとられるまでにかかる時間を考慮して設けていますが、予測が難しい場合にはリードタイムが確保できない場合もありますので、十分にご注意ください。＜出典 気象庁＞

非常時の持出品・備蓄品チェックリスト

救助や救援物資が届くまでに最低限必要なものを準備しておきましょう。

- 貴重品**
 - 現金(小銭含む)
 - 車や家の予備鍵
 - 銀行の口座番号など
 - 健康保険証
 - 身分証明証(運転免許証など)
 - 印鑑
 - 予備の眼鏡、コンタクトレンズ
 - 母子健康手帳
- 情報収集用品**
 - 携帯電話(充電器含む)
 - 緊急時の家族の連絡先
 - 携帯ラジオ(予備電池含む)
 - 筆記用具
- 食料など**
 - 飲料水(1人1日3リットルが目安)
 - 非常食(非常食と合わせて日常備蓄もおすすめしましょう)
※日常備蓄とは、日常的に使っている・購入しているものを少し多めに準備しておくことをいいます。
- 便利品など**
 - ヘルメット(防災ずきん)
 - 懐中電灯(予備電池含む)
 - 笛やブザー(場所を周知)
 - 万能ナイフ
 - 使い捨てカイロ
 - マスク
 - ビニール袋
 - アルミ製保温シート
 - 毛布
 - スリッパ
 - 軍手か皮手袋
 - マッチ(ライター)
 - 給水袋
 - 雨具(長靴含む)
 - レジャーシート
 - 簡易トイレ
- その他**
 - 救急セット
 - 常備薬・持病薬
 - タオル
 - トイレットペーパー
 - 着替え(下着も含む)
 - ウェットティッシュ
 - 紙おむつ(幼児用・高齢者用)
 - 生理用品
 - 粉ミルク・哺乳瓶
(乳幼児に必要なもの)

ご自身や家族の環境に合わせて必要なものを準備しましょう

- ・非常持出品は、両手が使えるリュックタイプにまとめておきましょう
- ・避難の妨げにならないように、軽くコンパクトにまとめましょう
- ・自分や家族の状況に応じて必要なものを選びましょう
- ・自分に必要なものの優先順位を決めて準備しておきましょう
- ・定期的に中身をチェックしましょう